

従来、中世の葬送研究は、石塔に代表される身分層を対象とし、しかも京都や鎌倉といった都市が中心であった。それに対して、本木簡群は地方村落におけるものであることは確実であり、さらには身分層や、文献史料に見出しがたい往生以外の葬送形態を示す可能性も含む。『弘法大師行状絵巻』第二八紙に近い実情と推測され、その重要性が見出される。

なお、木簡の釈読とその解釈にあたっては、新潟大学の矢田俊文氏他の新潟県内の中世史研究者の方々、(財)元興寺文化財研究所の狭川真一氏のご教示を得た。

## 9 関係文献

新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団『一般国道8号白根バイパス関係発掘調査報告書 浦廻遺跡』(二〇〇三年)

(田中一穂)

## 新潟・草野遺跡

- 1 所在地 新潟県北蒲原郡中条町赤川
- 2 調査期間 二〇〇二年(平14) 六月
- 3 発掘機関 中条町教育委員会
- 4 調査担当者 水澤幸一
- 5 遺跡の種類 官衙跡・自然流路
- 6 遺跡の年代 奈良時代末期～平安時代初期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(中条)

調査地は現在平野に立地するが、河川蛇行部の葦原の微高地に築かれた遺跡である。今回の調査は県営圃場整備事業に伴う水路部分の調査で、幅3m長さ77m、面積は二三一㎡である。調査の結果、川跡、柱穴・溝などを検出したが、建物の規模などは不明である。木簡は全て川跡から出土した。上流にあたる東側の川から「九九」木簡(1)が出土したほかは、いずれも下

8 木簡の釈文・内容

- (6)
- 
- 

なお、釈読は、長岡技術科学大学の相沢央氏のご教示による。